

沖縄県水産海洋研究センターニュース(第2号)

2006年(平成18年)6月発行

本所 〒901-0305 沖縄県糸満市西崎1丁目3番1号
TEL:098-994-3593 FAX:098-994-8703
石垣支所 〒907-0453 沖縄県石垣市宇川平828番2号
TEL:0980-88-2255 FAX:0980-88-2114
ホームページ: <http://www.pref.okinawa.jp/fish/>

石垣支所紹介



前号で組織体制が変わったことを紹介しましたが、「水産試験場八重山支場」も今年4月から「水産海洋研究センター石垣支所」に名称変更しました。しかし、電話等の受け答えはまだ水試八重山支場と言ってしまいます。石垣支所は、1966年10月に琉球政府立模範養殖場として設立され、1970年2月に琉球水研八重山支所、8ヶ月後の10月には琉球水試八重山支場と改称され、復帰の1972年5月に沖縄県水産試験場八重山支場になりました。私が1973

年6月に新規採用され、最初に配属になったのが八重山支場だったので、33年間親しんできたこの名称ともお別れになることは一抹の寂しさがあります。

当支所は設立当初から**増養殖研究**を主な業務としております。復帰前の模範養殖場～琉球水試八重山支場時代には、黒真珠を造るクロチョウガイの種苗生産研究をはじめ、現在生産量が全国一になっているクルマエビの種苗生産研究を行いました。復帰後の県水試八重山支場時代にはシャコガイの種苗生産及び増養殖研究、内水面養殖技術及び魚病研究、魚類の種苗生産及び増養殖技術研究、保護水面管理事業を行い水産業の振興に寄与してまいりました。

水産海洋研究センター石垣支所としての今年の調査研究テーマは、**貝類**で①シャコガイ母貝の成熟試験、②シラナミの漁業資源生物学的研究、③シャコガイ増養殖技術開発、④シャコガイ生産事業で、ヒメジャコ、ヒレジャコ、ヒレナシジャコの種苗生産とそれらの早期採卵技術研究、ヒメジャコの人工基盤の開発研究、また、次期対象種及び漁業調整規則見直しのための情報収集としてシラナミの生態調査を行っています。**魚類**では⑤タマカイの種苗生産技術開発試験、⑥大型ハタ類の性転換・性成熟研究、⑦ヤイトハタ生産事業で、ヤイトハタの種苗生産や次期対象種としてのタマカイの種苗生産研究、またそれらのホルモン処理による早期種苗生産技術開発の研究を行っています。さらに、**資源管理型漁業の推進**として、⑧八重山海域資源管理型漁業推進調査、⑨シロクラベラの資源回復に向けた幼期生態研究で、八重山海域の漁業資源状況を把握し、漁業者による資源管理の支援を行います。また、⑩漁業管理情報基礎調査でイセエビの産卵期調査を行い漁業調整規則見直しのための情報を収集します。なお⑥は琉球大学熱帯生物圏研究センター、西海区水産研究所石垣支所と、⑨は西海区水産研究所石垣支所との共同研究で行っています。

(石垣支所長 照屋忠敬)

海を知らないヤイトハタのこどもたちは水槽の中ですくすく育っています

ヤイトハタの種苗生産業務は、大まかに分け親魚養成、採卵、種苗生産(第一段階)、中間育成(第二段階)そして種苗配布の五つの項目に分けることができます。

石垣支所で**親魚養成**しているヤイトハタは、4月22日より産卵を始めました。4月23～27日に806万粒の受精卵を**採卵**し、屋内外の水槽5面で種苗生産を開始しました。受精卵から孵化した仔魚数を計数すると250万尾となり、孵化率は約30%となりました。

第一段階の**種苗生産**では、受精卵から体長25mm前後の稚魚まで陸上のコンクリート水槽の中で育てま



ヤイトハタ仔魚

す。体長3mmにも満たない孵化仔魚から、25mm前後の稚魚になるまでには約40日かかります。孵化直後から透明な体をしている仔魚は、親とは、似ても似つかぬ形をしており、水槽の中を漂っています。仔魚は、背中と腹に長く伸びた“棘(きょく)”のある鰭(ひれ)を持つのが特徴です。蛙で例えるならオタマジャクシ時代の尾びれのようなものです。卵から孵化して30日たつと、体長15mm前後に成長し、長かった棘は目立たなくなり、水槽の中を活発に泳ぎ回るようになります。これから10日間は、ヤイトハタの赤ちゃんが一気に大人びてくる期間です。大きく変化する点は、先ず透明であった体に鱗が出来はじめます。同時にヤイトハタの特有の模様があらわれ、立派なミーバイに変態します。この体色の変化に伴い、それまで水槽の中を活発に泳ぎ回っていた稚魚は、水槽の壁や突起物などに群がりミーバイ本来の海底での生活に移っていきます。



ヤイトハタ稚魚

第二段階の**中間育成**では、水槽から取り上げた全長25mm前後の稚魚を水槽内に張った生簀網に収容して20～30日かけて50mm前後の大きさにまで育てます。配布出来る大きさに達した種苗は、ベルトコンベアーを使用した選別計数機を用いて、選別・計数した後に沖縄県内各地に配布されます。

第一段階の種苗生産は、6月1～8日に終了しました。取り上げた種苗の数は、41万尾で孵化仔魚からの生残率は16パーセントとなりました。

現在、引き続き第二段階の中間育成を行っています。6月下旬～7月上旬には、養殖業者に**種苗配布**できるサイズに成長します。海を知らなかったヤイトハタのこどもたちは、沖縄県内各地の養殖場で初めての海に出会うことになります。

(石垣支所 木村基文)



ヤイトハタの選別



ヤイトハタの取り上げ